



第30回

全国豊かな海づくり大会功績表彰団体

栽培漁業部門

大会会長賞

〔北海道〕えりも以西栽培漁業振興推進協議会

14

農林水産大臣賞

〔広島県〕尾道漁業協同組合

17

水産庁長官賞

〔岐阜県〕財団法人岐阜県魚苗センター

21

資源管理型漁業部門

大会会長賞

〔青森県〕十三漁業協同組合・車力漁業協同組合内水面漁業権管理委員会

25

農林水産大臣賞

〔熊本県〕松尾漁業協同組合

29

水産庁長官賞

〔愛知県〕愛知県しらすいかなご船びき網連合会

32

漁場・環境保全部門

大会会長賞

〔岐阜県〕関市立瀬尻小学校

35

農林水産大臣賞

〔鳥取県〕日野川水系漁業協同組合

38

環境大臣特別賞

〔岩手県〕下内野自治会

41

環境大臣特別賞

〔山口県〕樫野川流域活性化交流会

44

水産庁長官賞

〔神奈川県〕財団法人神奈川県内水面漁業振興会

47

〈岩手県〉下内野の自治会

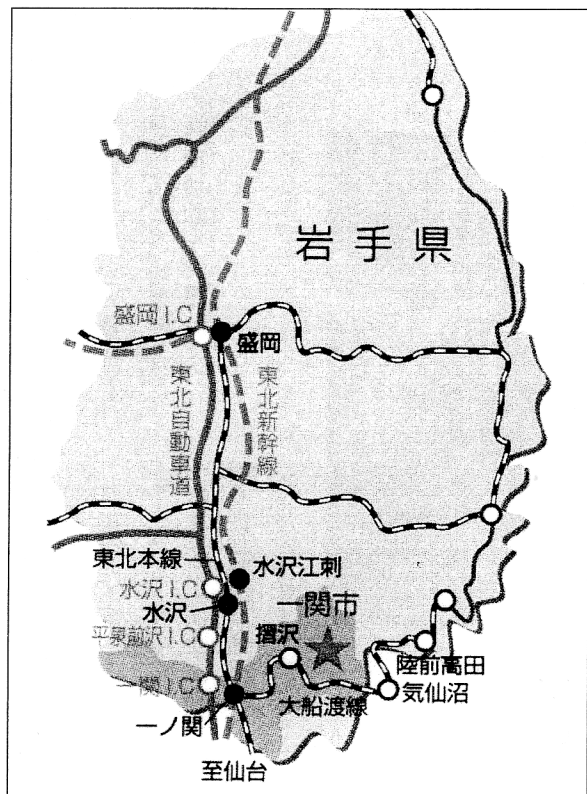
〒029-0711 岩手県一関市大東町大原字堰ノ上10-3

下内野集落は、岩手の県南、平

泉と三陸海岸の中間に位置する静かな山里。岩手県一関市大東町大原を源流とする一級河川砂鉄川の源流域にある典型的な中山間地帯であり、過疎化と高齢化の渦中にありながらも住民が一丸となり地

域づくりに奮闘している。

下内野集落は、平成元年に自治会を設立し、平成六年には日本大学との交流から「石磨き大会」を開催し、「かじか」が棲めるよう清流砂鉄川の水質保全等に取り組んできた。



[位置図]

1 組織の概要

●設立

平成元年四月八日

●会員数

戸数四二戸、人口一四〇人

●ホームページ

(<http://homepages3.nifty.com/kajikanosato/>)

2 活動内容

(1) 河川の環境保全活動

ア 石磨き大会

イ 関連事業…かじか稚魚放流、かじかの棲息調査、水生生物調査、河川清掃活動

(2) 目的

近年、清流だった砂鉄川も水質汚濁が懸念され、かつて多く生息していた「かじか」も少なくなってきたことから、「石磨き大会」

を開催し、清流を呼び戻そうとするものである。「石磨き」は、石に付いた有機物を除去し、川底に酸素を送り込むことで清流化につなげようとする取り組みで、河川環境の大切さを学び、水質保全に対する住民意識の高揚を図る。

また、当自治会では清流にしか棲まない「かじか」をその清流度指数(生物指数)として捉え、清流を取り戻し「かじかの里」を実現しようと頑張っている。

(3) 活動の具体的な内容等

ア 石磨き大会

平成六年に、日本大学河野先生の研究室との交流から始まった石磨き大会は、毎年八月第一日曜日に開催し十六回になった。これまで、日大参加者は延べ四五八人、全体では延べ一、七〇六人となっている。平成二十年は第十五回記念「みちのく石磨き大会」として開催し、地元出身の音楽家から作曲していただいた歌「かじかの里」を披露した。

イ 関連活動

かじか稚魚の放流は、平成七年、八年の各大会で計一、〇〇〇尾、

さらに平成二十年、二十一年にも計九五〇尾を放流している。石磨き大会に合わせて、かじか稚魚放流、生息調査のほか、水生生物調査や河川清掃活動を実施している。

(4) その他の活動

下内野自治会では、平成十一年三月に策定した「下内野4WD計画」「下内野「夢」キャッチフレーズーかじかの里（自然豊かな快適な住環境の創造）ー」に基づき、「石磨き大会」以外にも「田舎教

授派遣事業」、「国際交流事業」、「全世帯宅地分譲事業」などに取り組んでいる。

3 功績の概要

(1) 活動の効果

ア 「石磨き大会」の継続実施

(ア)「石磨き」は、自然に優しい特製の古縄たわしで川底の石を磨き、石に付いた有機物を除去し、また、石の下に酸素を送り込むことにより清流化につなげる活動であり、水に親しみながら、河川環境の大切さを学び、水質保全に対する住民意識の高揚を図り、川をきれいにする活動を都市と田舎の老若男女が一緒に取り組もうとするものである。

(イ)「石磨き」というユニークな取り組みにより、水質保全に加え、河川環境に対する意識の高揚が図られているが、平成二十一年度で第十六回という継続した「石磨き大会」は、日本大学の学生等とともに、市内外から多くの参加者が加わり、「かじかの里」が作曲されるなどその活動は進化を遂げている。

(ウ)平成二十年度から作成したパンフ「石磨き入門ー清流化のススメ」は、地域を訪れる釣り人などに配布、また、平成二十一年度設置したPR看板により年間を通した活動となっている。



[H21.8.2 石磨き大会（日大生と記念撮影）]



[H21：かじかの放流]



[H21：石磨き大会]

(エ) 平成二十一年二月に開設した下内野自治会のホームページでは、「石磨き」を始めとする自治会活動を全国に情報発信し、河川環境や水質保全の大切さをPRしている。

イ かじか生息数

(ア) かじか稚魚の放流、石磨き並びに水質改善等の効果により、かじか棲息調査では生息数が増えてきていることが確認された。

(2) 社会への波及効果

ア 環境保全の啓発普及

(ア) 「石磨き」による砂鉄川の水質保全活動は、地域内外からの参加、県事業としての取り組み、マスコミ報道、「石磨きの出前」等により流域の他地域へ拡大するなど、水質保全に対する意識の啓発や向上に大きく寄与している。

イ 水質浄化

(ア) これまでの活動で地域住民のみならず、砂鉄川の上・下流域からの参加者も増え、水質保全の重要性が認識され、

家庭でできる水質汚濁防止や合併処理浄化槽設置等の取組みに対する意欲が向上している。

(イ) 地域においては、水質浄化への家庭での実践活動の活発化に伴い、浄化槽の普及拡大が進み、汚水処理整備は山村地域の中では高い普及率を示し、水質の改善が見られた。

(3) 水質保全活動から元気な地域づくりへ

ア 都市農村交流という一方通行では真の交流ではないということから、自治会員が神奈川県藤沢市にある日本大学生物資源科学部の学部祭「藤桜祭」に参加し、田舎の良さをアピールする田舎教授派遣事業は、学生に大好評で、平成十一年から実施して延べ八回になる。

イ これらの活動は、自分たちの地域の良さを再発見する機会となり、また、地域が一丸となった地域づくり活動や地域リーダーの育成につながり、更には、生まれ育ったこの地域に対して自信と誇りが持てるようになった。

4 功績の評価

(1) 河川環境保全活動のモデル

「継続は力なり」という言葉があるが、当地域の活動はその典型であり、当地域の長期間にわたる活動は、日本大学生物資源科学部との共催で行っていることが非常に大きく、全国のモデルとなつて活動状況を発信してもらいたいと考える。

(2) 日本大学との交流の成果

都市と農村の交流から始まった日大学生等との交流は、参加者から「第2の故郷」として心に刻み込まれている。

一方、地元住民にとって若者との交流は、元気をもらって活力を生み、地域の活性化に結びついている。

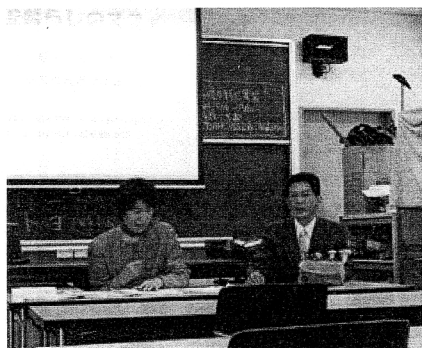
一方通行ではなく、相互交流を続けていることが長続きのコツと思われる。

(3) 地域活性化への取組み

河川の源流域の山村は、高齢化、過疎化が進行し、全国的な課題となつている中、若者との交流は、次第に住民にやる気を芽生えさせ、それを「下内野4WD計画」としてまとめあげ、実行に移した取組みを高く評価する。

(4) 活動の原点を忘れない取組み

各種の賞を受賞しているが、地域活動の原点は「石磨き大会」であり、「かじかの里づくり」であることを肝に銘じた取組みを頑なに守って、日本大学との交流を継続実施している。日本大学生物資源科学部は、地域資源である水、土壌などの新しい環境創造をテーマに、地域環境保全や日本の水産業を担う人材を育てる大学であり、学生時代に自然環境の豊かな当地域での体験は、近年、環境との共生が課題となつている産業振興において、将来の水産業振興に役立つものと確信し、かつ、活躍を期待している。



[H15：田舎教授派遣]